

平坂江戸廻船の遭難

文化振興課市史編纂担当 松井直樹

江戸廻船の乗組員は10人から15人程度で、所要日数は江戸までを順風で直行すれば4・5日、早ければ3日で行けましたが、通常は風待ちなどで10日ほどを要しました。航海の途中には、海が荒れて遭難することもあり、乗組員が溺死することもしばしばありました。

寛政元(1789)年9月に船頭彦兵衛以下14人を乗組員とする平坂湊の松吉丸が伊豆下田湊を出帆しましたが、伊豆大島差木地沖の海上で転覆しました。7人が救助され、船頭彦兵衛、父長兵衛、船員理右衛門、食事係徳三郎ら7人が溺死し、積み荷の木綿315個のうち残ったのは16個のみでした。寛政2年には平坂甚七船が平坂湊を出帆し、諸所を回って伊豆小浦へ入津、翌日同所を出帆、東風が強い

ため長津呂へ入津、滞船していたが大風雨となり、「風浪烈しく当たり船打ち破り」、人的被害はなかったものの水船となりました。文化4(1807)年11月には船頭甚七以下乗組員15人の平坂湊隣通丸が平坂への帰途、三重県神島沖の海上で破船し、5人が救助され、10人が溺死。文化15(1818)年5月にも平坂湊の角屋重助を船頭とする乗員15人の船が、伊豆石廊崎沖の海上で転覆し、5人が救助されましたが重助以下10人が溺死しました。この時木綿を輸送していたとされたことから、江戸大伝馬町太物問屋仲間が海運業者の海上溺死者供養のために徳本和尚に依頼して伝通院大仏殿で平坂と伊勢白子(三重県鈴鹿市)の商売に係る溺死者の追善供養を行い、徳本和尚による「南無阿弥陀仏」を刻した石塔を回向院(東京都墨田区)に建てています。

キッズアルバム



安藤 希花ちゃん
(吉良町)

平成23年12月生まれ
歌とお絵かきが好きな希花。笑顔で周りの人を明るくしてってね。



中川 天照くん
(一色町)

平成23年12月生まれ
船が大好き、イタズラ大好き、元気いっぱい。みんなを癒やしてね♡



高島 杏莉ちゃん
(米津町)

平成23年5月生まれ
マイペースで癒やし系の杏莉♡これからも姉妹仲良しで育ててね♪



中川 来也くん
(一色町)

平成23年12月生まれ
元気いっぱいらいくん！お姉ちゃんと仲良くいっぱい遊んでね♡



杉浦 悠有くん
(寄住町)

平成23年12月生まれ
運動好きの悠有くん♡いっぱい食べて大きく育ててね☆



深谷 翔くん
(鳥羽町)

平成23年12月生まれ
みんなを笑わせるのが大好きな翔やん。これからも元気に育ててね。



杉江 快斗くん
(一色町)

平成23年12月生まれ
車と絵本が大好き♡かいちゃん。元気にたくましく育ててね。



宮地 優花ちゃん
(平坂町)

平成24年5月生まれ
わが家の小さなやんちゃ姫♡いつも笑顔をありがとう♪

